不登校生徒の登校に至るまで～登校開始後の変化

思斉支援学校　津田 峰彦

はじめに

　不登校生徒への対応は、本人や保護者との密接なコミュニケーションを取ることが難しく、日常の教育活動とは異なったアプローチや支援が必要な状況が発生する。また、不登校状態から抜け出し登校ができるようになった後も、学習の遅れや対人関係の未熟さにより様々な困難を抱えていくことがある。本事例は、長期の不登校状態から登校ができるようになった生徒の登校開始後の本人の成長と、成長に伴って出現した困難への対処の記録を、昨年度の校内紀要に掲載した内容と、それ以降の本人の様子をまとめたものである。

本人の状況

・小学校６年生より不安感から体調不良を訴えて不登校となり、本校へは願書提出・入学検査時の来校のみ。本校入学にあわせて中３の夏に療育手帳を取得(判定 A)。高等部入学後、１年生時は登校日数０日、月１回の家庭訪問時も体調不良等で本人と顔を合わせることができたのが２回ほどであり、２年生でも初めは登校が難しい状況であった。

４月２６日（火）

　家庭訪問、本人との初顔合わせ。

雑談をしながら本人の興味・関心ごとについて聞く（１年生時の担任より絵を描くことに興味があることを事前に聞いていたのでそのあたりの内容について掘り下げて聞く)。また、「卒業後にどんなことをしたい？」との質問に「(作業所とかではなく）普通に働きたい。」との回答。「そのためには今、しないといけないことは何かを考えよう。」と、暗に登校への意欲を促す。

５月２４日（火）

　２回目の家庭訪問、前回の訪問時に絵を描くことに興味があるとの事であったので、画材を持って行き近所の公園で３時間ほど一緒にスケッチをする。話をしている中で「学校くるか？」と聞くと、<u>「明日から行きたいです」</u>との発言。帰宅後登校について母親と話し、翌日は担任が朝自宅まで行き、一緒に登校することで了承を得る。帰校後、管理職とクラス担任に経過報告し、翌日以降の受け入れ体制について協議。実習期間ということで全体での紹介等はせず、学校到着後はクラスでの紹介のみをおこない、実習へ参加することにする。

〇保護者の状況…昨年度や今年度はじめは連絡がつきにくく、留守電を聞いて後日折り返し連絡をもらえる状況であったが、登校開始後はすぐに電話に出るようになってきた。

〇学力…ASA 検査については６月７日に再度担任団で実施。高等部入学時より高い評価がでた。入学検査時の国・数のテストについては、学力の遅れからあまり点数の変化はなかった。加減乗除の記号の違いを理解しておらず、すべて加算法による計算を行う。これも学習空白期間における学力の遅れと感じられ、学習次第で十分獲得できる能力と思われる。

○ASA 検査結果（昨年度→本年度）（回答者…生徒保護者）

言語スキル……… ６４ →１１０（３歳後半 →１２歳前半）
日常生活スキル… １８ → ５４ （３歳後半 → 中学生 ）
社会性スキル…… １７ → ８４ （３歳後半 →１２歳前半）
対人関係スキル… １７ →１０４（３歳前半 → 高校生 ）
全検査スキル…… １１６→３５２（３歳前半 → 中学生 ）

○運動能力…体力的に遅れを感じることはないが、日常的な運動不足から登校当初は筋肉痛を訴えることがあった。また、身体の動きに連動性がなく、ぎこちない体の動きになることがある。ラジオ体操なども正しい動作を習得していないが、これは今後の反復練習による習得が可能と感じられる。(←２学期末ごろにはラジオ体操を正しくできるようになってきた。)

５月２５日(水)

自宅まで迎えに行き、初登校。緊張した様子ながらも、学級に入り自己紹介できた。金曜日まで実習期間ということですぐに校内実習にはいる。実習内容をよく理解し、集中して取り組めていた。

☆週末まで登下校練習で徐々に自力通学の距離をのばしていった。次週より自力通学開始。

☆登校当初から、学級の友だちの名前を覚えようとする欲求があり、自主的に名前を書き取ったりして覚えようとしていた。

☆登校５日目頃、学年の友だちから頭をなでられ、「あいつ、なんなんですか」と少し怒っていた。対人関係において、距離を近くとる相手に対しての接し方を経験しておらず、戸惑ったようである、このあたりも、経験を増やす・正しい対応を教えることで良い対人関係を構築できるよう学習させる必要があると思われる。

☆５月全校集会に参加後､「生徒会をしてみたい」という希望を言ってきた。生徒会の内容、選挙についての話を担当教員より話してもらう。

６月２１日(火)

運動会明けの週初め、１１時頃に不調を訴え、給食後 38.9℃の高熱を出す。その状態でも「授業に参加したい、友だちと話がしたい」と言う。自身の状況と、その状態でまわりに与える影響を話し､納得させ保健室にて休ませる。3時すぎ母が迎えにきて帰宅。

７月８日(金)

懇談会。母親の話では、学校が楽しい・土日が来るのがいやだとのこと。登校後、反抗的な態度をとるようになり、家でけんかになることがある。外部との接触が増え、いい意味でも悪い意味でも影響を受けていることが感じられる。

母との懇談後、本人を交え三者懇談。本人からも学校が楽しいとの発言があり､「登校できるようになったきっかけは？」と質問すると､「(２回目の)家庭訪問時に『学校来るか？』と聞かれたことで行こうと思った。」とのこと。本人の興味・関心を捉え、関係を深めたことで外部との接触に対しての欲求が芽生えたと思われる。

※６月より欠席日数が１０日／月を下回り、長期欠席の該当者から外れる。

８月２日（火）

親子夏祭りに参加。楽しくゲームなどをしていた。母親より「家庭で反抗的な態度をとるようになってきている」との話があり、外出時の行き先等を言わずに出かけ、遅く（９時ごろ）に帰宅することがあるとのこと。母との言葉でのやり取りを嫌がる年頃でもありホワイトボードへの行き先・帰宅時間の記入を提案。その後は記入をして外出するようになり、帰宅時間も守るようになったとのこと。　また帰宅後の過ごし方についてや異性の同級生との交流について適切な態度がとれるよう、注意喚起をおこなう。

８月２３日(火)

親子プール参加。それまでは全く接点がなかった高１女子とプールでボール投げを自由時間に楽しんでいた。今後、異性への興味・関心が増えることが予想される。

☆生徒会選挙への立候補

学校生活に積極的に関わっていきたいという本人の意欲から、生徒会副会長へ立候補した。自己欲求の実現と言う側面もあったが、演説・ポスター制作を自主的に行い、当選を果たした。その後の生徒会活動も積極的にできている。

〇奨学金の授与

給付型奨学金に申し込み、受理される。１０月３日（月）本校にて授与式、母親にも来校いただき、本人と参加。「奨学金で、修学旅行にいきたい」との本人の意思表明。

１０月２６日（水）

学校行事として各学部・学年ごとで身体能力別に班編成をして淀川河川敷を歩く「歩こう会」が実施され、本生徒は 8.3 ㎞を歩くグループで、完歩することができた。この日の帰宅時、本来は電車通学であるがバスでの帰宅を学年の教員に見つかり、また他の電車通学の同級生もバスで一緒に帰るよう声をかけていた。翌日、職員室にて通学経路についての確認、今後は正しい通学経路で登下校するよう指導。一つ一つの行動に対して本人が“知らない初めての事”として、本人の理解がしやすいよう、また同じ指導をされないように正しい対応の方法を伝えていくことが今後も必要である。

１１月２１日（月）

以前より身体トレーニングに興味を持っており、活動内容・安全に活動するための注意点などを伝え、本日以降朝のトレーニングへの参加を開始する。はじめは担当教員の顔と名前が一致していなかったが、自分でメモを取り覚えて以降、廊下ですれ違ったときなどにはあいさつをするようになった。活動時は担当教員の指示をよく聞き、他の生徒ともトレーニングの方法を話しながら協力して参加できている。

１２月８日（木）

母親・本人とで三者懇談。学校生活が楽しく、冬休みが来るのがいやだとのこと。また、本人曰く「障がいをもっている人と云う目で見られるのがいやだった。」とのことだが「卒業後は障がい者サポートも利用したい。」と反する内容の発言もある。卒業後は以前と同様に「（普通に）働きたい、就職したい。」とのこと。それに関して、学校生活（学力）の遅れを心配している。家庭生活面では母親に対して反抗的な態度や、地域のトレーニンググルームへの参加で帰宅時間が遅くなったりすることがあるとのこと。規則正しい生活習慣を身につけられるよう、週間スケジュールを家庭と協力して作っていくことにする。

まとめ（本校紀要掲載時点のもの）

　登校はじめは担任団も含め本人の状況が分からず、突然の変化に戸惑いがあった。ただ、本人の口から<u>「学校に行きたい」</u>という発言には心を揺さぶられるものがあった。５年間の不登校状態から脱却し、約６ヶ月ほぼ欠席なく学校生活を楽しく過ごすことができるようになってきていることは、本人にとっても保護者・担任にとっても良い方向に向かっていると思えるものである。まだ学力の遅れからの不安感や、卒業後の進路の心配など、乗り越えていかなければならない部分も多くある。また、本人の「（作業所とかではなく）普通に働きたい。」や「障がいをもっている人と云う目で見られるのがイヤだ。」との発言からは自分自身の障がい受容をしきれていないと感じる面があり、その部分でのサポートも必要である。現時点では学校生活の途中であり、結果として卒業時にどのような状況になるかは未知数であるが、今後も本人が登校できるようになった時の気持ちや意欲を持ち続けることができるよう、指導し支えていきたい。

２年時の登校日数（１２月まで）

月	4	5	6	7	9	１０	１１	１２
出席	0	5	１９	１３	１９	２０	２０	１６
欠席	１５	１４	3	0	0	0	0	0

※追記：３学期も始業式から休まず登校できている。

３学期、本人より年賀状が届いた。

今後の抱負も書かれ、心の温まる学期のスタートとなった。

―その後の様子及び変化―

２年生の３学期も休まず登校することができ、無事に２年生の学校生活を終えることができた。３学期の登校日数は以下のとおり。

月	1	2	3
出席	１１	２０	１６
欠席	５(※)	０	０

※ １月の欠席は全て出席停止による

修了式を終え、春休みの期間３年生の始業式から登校ができるか若干の不安もあったが、変わらぬ様子で３年生の始業式から現在まで登校することができている。今年度に入り、筆者も担任を外れることとなったが、クラスの外から様子を見守り、また安定した登校をすることで本人に起きた変化を、高等部３年生に進級した後の様子も含め掲載する。

学習班の変更

入学検査時の成績を参考にし、学習能力段階別に６班編成をした学習グループの上から４番目のグループに入っていたが、授業を進めていくうちに所属するグループ以上の学力があるように感じられ、入学検査時と同様の試験をおこなった結果、上から２つ目のグループに変更となった。この変更により、本人の習熟度に合った授業を受けることができ、意欲をもって授業に参加することができている。

身体面の変化

運動をほとんどしない生活環境で、少しふくよかだった身体状況を周りの目を気にして意識しはじめ、トレーニングジムに通うようになった。帰宅後や休日はジムでのトレーニングに時間を費やすと同時に家庭での極端な食事制限を始めたため、体が追いつかず授業中にぼんやりとしたり体調を崩すことが増えるようになってきた。担任・保護者から正しいトレーニング方法と食事について何度も話をしたが、（周りの目をきにして）体を鍛えることへの意識が強くなかなか指導について納得しなかった。２学期途中に大きく体調を崩し長期で登校ができなくなったことで、少しずつではあるが食事面での改善が見られるようになり、体調を崩すことがやや少なくなってきている様子である。

今後は、自身での体調管理の確立も自立活動の目標として取り組ませていきたい。

家庭生活の変化

自宅での家族関係以外の外の世界に出ることで、今まで知らなかった事や経験していない事を知る機会が増えたため、行動範囲が広がり保護者の心配も増え、その事で保護者と衝突することが多くなった。しかし、大切なことは保護者に相談しており、必要なコミュニケーションはなくなっていない。

新担任との人間関係の形成について

旧担任の持ち上がりが１名のみで、昨年度とは全く雰囲気の異なる担任団に変わったことで、最初は戸惑いもあり登校しにくくなるような事もあったが、じっくりと話をすることで学年当初の戸惑いも解消し、お互いの理解を深めることができ、登校の継続につながった。

この件においては、本人が世の中には色々なタイプの人間がいるということが分かっておらず“大人とはこうあるべき”というイメージを強く持ちすぎたため、それとは違う大人との関わり方の経験がなく、理解できていなかったことが要因と考えられる。

他学年・他学部の生徒との交流における指導

交友関係が広がり他学年・他学部の後輩ができることで、携帯電話（ＬＩＮＥなど）での交流も急速に広がり、それが元でトラブルがあったことが２学期に入り分かった。ＬＩＮＥだけでなく、ＳＮＳ全般、インターネットを使用する上でのモラルやマナーについての指導を行い、今後もそのような場面が増えることが予想されるため、他の生徒同様に継続した指導が必要である。

修学旅行への参加

小学校・中学校と参加することができていなかった大きな行事である。昨年度の登校開始後はこれに参加することをとても楽しみにしており、友だちと一緒に修学旅行先での色々な活動を楽しみ、多くの経験を増やすことができた。

文化祭への参加

学年での劇の発表を文化祭で行なうため、約１ヶ月の期間毎日２時限程度の練習を行なうこととなったが、前出の極端な食事制限も影響して練習開始と同時に体調を崩し、十分な練習をすることができなかった。しかし、体調を回復し登校をできるようになってからは高い集中力をもって練習に参加し、本番では今までで一番の演技をすることができ、劇の締めくくりの場面を大きく盛り上げることができた。

進路について（卒業後に向けて）

３年生になり、他の生徒の進路希望や進路状況の情報が入ってくることが本人の心理にも影響し、夏休みごろには一般高への進学を希望する時期もあったが、本人の将来の最終的な希望（働きたい）と、家庭の意向を担任を交えて話し合い、就労移行支援事業所へ２年間通い､働くためのスキルを身につけた後､就労をめざすということになった。

まとめ

今年度も体調不良による欠席を除き、安定して登校を継続することができている。学校生活の経験が増えることで、トラブルになることもあるが他者との良好な関わりを構築することができつつあり、経験が成長の糧となることが実感できた。また、本人が学校との積極的な関わりを持つことで、保護者との良好な関係ができ、学校生活を通じて家庭生活の様子も伺うことができるようになってきた。昨年度の登校開始時には、いつ再度不登校状態になるかとの不安もあったが、現在の本人の状況を見ていると、学校生活や友だちとの交流を楽しんでおり、登校に関しては安心して見守ることができる。

今後は卒業後の進路へのスムーズな送り出しに向けて、日々の学校生活を充実したものとできるよう、見守り、指導していきたい。

３年時の登校日数（１２月まで）

月	４	５	６	７	９	１０	１１	１２
出席	１５	２０	１９	１３	１５	１２	１０	７
欠席	０	０	２	０	５	９(※1)	１０(※2)	９(※3)

※1　１０月の欠席のうち２日は忌引による

※2　１１月の欠席は長期の体調不良による

※3　１２月の欠席は長期の体調不良による

以上